

静岡県試験研究 10 大トピックス（農林技術研究所）

<p>タイトル</p>	<p>肥大が早いワサビ新品種「伊づま」誕生</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>ワサビ種子繁殖系統の育成選抜 (H23~H27)</p>
<p>所属</p>	<p>農林技術研究所 伊豆農業研究センター わさび科</p>	<p>補職名 研究者名</p>	<p>上席研究員 馬場富二夫 上席研究員 久松 奨</p>
		<p>問合せ先</p>	<p>0558-85-0047</p>
<p>研究概要</p>	<p>【背景・ねらい】</p> <p>静岡県の水ワサビは生産額が全国一位で、高品質なワサビが生産される産地として知られている。しかし、種苗生産は他の野菜よりも難しく、生産効率が低い傾向にある。ワサビには分根や培養した植物体を苗として利用する栄養繁殖性品種と種子から育成する種子繁殖性品種があり、栄養繁殖性品種には病害の保毒や生産コストに、種子繁殖性品種には根茎（すりおろす部分）肥大の均一性に問題があった。</p> <p>そこで、伊豆農業研究センターわさび科では、約 2 万株の中から集団選抜法により根茎の肥大が優れる種子繁殖性のワサビ品種「伊づま」を育成した。</p> <p>【成果の内容・特徴】</p> <p>1 育成経過</p> <p>2005 年（平成 17 年）に「静系 17 号」を自家受粉し得られた後代から、2008 年（平成 20 年）に 7 系統を選抜、7 系統間の集団採種を行った。この集団から生育に優れる 3 個体を 2009 年（平成 21 年）に選抜、これを「静系 18 号」の親系統とした（図 1）。親系統から集団採種された後代の生育特性を調査したところ、「静系 17 号」と比較して根茎の肥大性に優れ、均一性も確認されたため、「伊づま」と命名、平成 27 年 4 月に品種登録を出願、平成 27 年 12 月 28 日に出版公表された。</p> <p>2 特性</p> <p>(1) 「伊づま」は主根茎の肥大に優れ、分根の発生は少ない（図 2、図 3）。</p> <p>(2) 「伊づま」の主根茎のすりおろし品質は、「辛み」、「粘り」が「真妻」よりも少ないが、「香り」が同等で「甘み」が真妻よりも多い（図 4）。</p> <p>(3) 種子で繁殖する品種であるため、分根を使って増殖する一般の方法と比べて、苗の大量生産が可能で、病害の心配が少ない。</p> <p>【成果の活用・留意点】</p> <p>1 「伊づま」は県内限定生産品である。</p> <p>2 静岡県内のワサビ生産者で組織される静岡県山葵組合連合会と平成 28 年 4 月から 3 年間の許諾契約を締結し、本年度から親株の供給を始める。</p> <p>3 ミツバチを使用した受粉により採種するため、採種専用の施設、親系統の栽培が必要となる（図 5）。</p>		

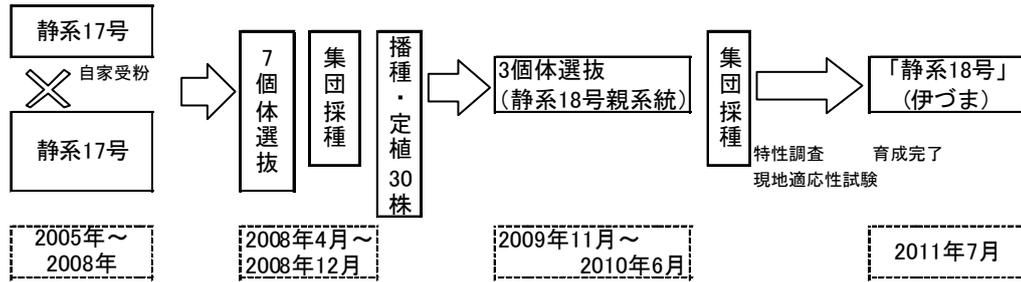


図1 ‘伊づま’の育成経過

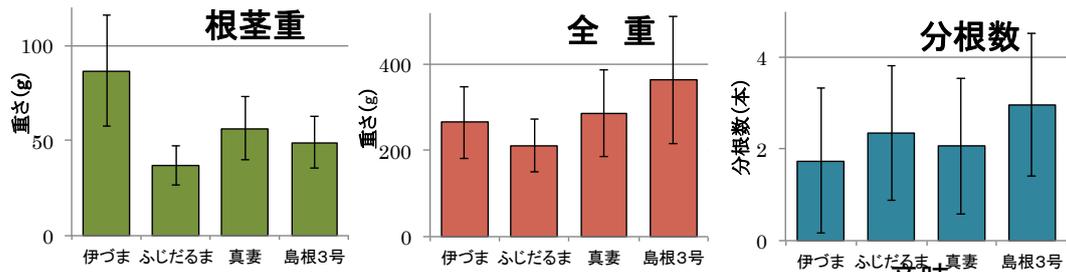


図2 ‘伊づま’の特性



伊づま ふじだるま 真妻

図3 ‘伊づま’主根茎の外観

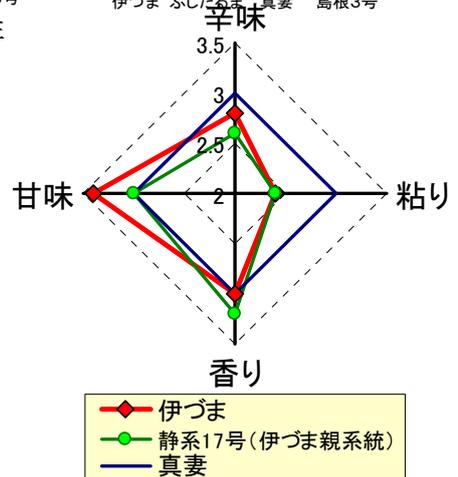


図4 ‘伊づま’の食味評価^z

^z 5個体調査, 1(弱)~5(強)の5段階評価, ‘真妻’は全て3.0



図5 採種施設 (左: ミツバチを放飼するためネットで隔離) およびワサビ種子 (右)